

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成30年1月12日
【四半期会計期間】	第60期第3四半期（自平成29年9月1日至平成29年11月30日）
【会社名】	富士精工株式会社
【英訳名】	FUJI SEIKO LIMITED
【代表者の役職氏名】	取締役社長 森 誠
【本店の所在の場所】	愛知県豊田市吉原町平子26番地
【電話番号】	(0565) 53 - 6611 (代表)
【事務連絡者氏名】	経営管理部長 近藤 規央
【最寄りの連絡場所】	愛知県豊田市吉原町平子26番地
【電話番号】	(0565) 53 - 6611 (代表)
【事務連絡者氏名】	経営管理部長 近藤 規央
【縦覧に供する場所】	株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第59期 第3四半期連結 累計期間	第60期 第3四半期連結 累計期間	第59期
会計期間	自平成28年3月1日 至平成28年11月30日	自平成29年3月1日 至平成29年11月30日	自平成28年3月1日 至平成29年2月28日
売上高 (千円)	14,556,033	15,200,084	20,388,601
経常利益 (千円)	332,471	640,272	307,126
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	266,914	309,295	297,691
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	811,039	830,680	170,443
純資産額 (千円)	15,688,174	17,187,435	16,583,621
総資産額 (千円)	23,014,003	24,975,930	23,619,403
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	13.72	16.45	15.36
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	13.70	16.44	15.33
自己資本比率 (%)	60.0	60.3	61.5

回次	第59期 第3四半期連結 会計期間	第60期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成28年9月1日 至平成28年11月30日	自平成29年9月1日 至平成29年11月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	5.54	11.41

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国を中心に足下では雇用情勢・所得環境の改善が続いたことに加え、企業収益の回復に連動して設備投資にも持ち直しの動きがみられるようになり、全体としては緩やかな回復基調が続いております。

わが国経済におきましては、海外経済の回復を背景に輸出の増加が続くとともに、個人消費を中心とした内需の持ち直しもみられ、景気は回復基調を維持しております。一方で、海外政治動向による経済情勢の不透明感は緩和しつつあるものの、中国経済成長率の鈍化や北朝鮮情勢など地政学リスクの高まりによる景気下振れへの懸念材料は依然として残っております。

当社グループの主要な取引先であります自動車産業界におきましては、企業業績は堅調に推移し、今後の設備投資に対する期待感はあるものの、世界経済の動向、環境対応、国内市場対策など不安要素もあり、経済環境の先行きは予断を許さない状況にあります。

このような状況のもと、当社グループにおきましては「グループ中期経営計画」の達成を目指し、新事業推進部を立ち上げ積極的な事業展開に向けた足場づくりに着手しました。また、意思決定の迅速化を目的に取締役会をスリム化し、機動的な事業展開ができる体制づくりを行いました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高は152億円（前年同四半期比4.4%増）、営業利益は4億1千万円（前年同四半期比89.9%増）、経常利益は6億4千万円（前年同四半期比92.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億9百万円（前年同四半期比15.9%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

日本

当地域におきましては、受注環境の回復が見られたものの、売上高は82億6千7百万円（前年同四半期比0.6%増）となりました。また、平成28年4月に発生した熊本地震の影響を脱し、売上原価の圧縮が進んだことなどから、セグメント利益は1億8千7百万円（前年同四半期は5千6百万円のセグメント損失）となりました。

アジア

当地域におきましては、中国において工具需要が堅調に推移したことなどにより、売上高は41億4千4百万円（前年同四半期比6.8%増）となりました。また、各連結子会社において経費圧縮に努めたものの労務費が増加したことなどにより、セグメント利益は1億3千4百万円（前年同四半期比32.7%減）となりました。

北米・中米

当地域におきましては、自動車産業界の回復基調が鮮明になり、工具製品の受注が増加したことなどにより、売上高は15億1千6百万円（前年同四半期比14.8%増）となりました。また、アメリカ子会社において労務費を削減したことなどにより生産性が向上し、セグメント利益は5千5百万円（前年同四半期比43.9%増）となりました。

オセアニア

当地域におきましては、断熱材の需要が堅調に推移したことなどにより、売上高は9億7千4百万円（前年同四半期比17.1%増）となりました。また、材料費の削減を進めた一方で労務費や経費が増加したことなどにより、4百万円のセグメント損失（前年同四半期は4千8百万円のセグメント損失）となりました。

その他

当地域におきましては、売上高は2億9千7百万円（前年同四半期比3.8%減）、セグメント利益は0百万円（前年同四半期比97.9%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は249億7千5百万円となり、前連結会計年度末と比較して、13億5千6百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が4億7千7百万円、有価証券が3億9千1百万円、投資有価証券が2億3千1百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。

負債

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は77億8千8百万円となり、前連結会計年度末と比較して、7億5千2百万円増加いたしました。これは主に、未払法人税等が2億7千9百万円、賞与引当金が1億7千4百万円、支払手形及び買掛金が1億3千4百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。

純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は171億8千7百万円となり、前連結会計年度末と比較して、6億3百万円増加いたしました。これは主に、為替換算調整勘定が2億1百万円、利益剰余金が1億9千6百万円、退職給付に係る調整累計額が1億6千9百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は60.3%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は5千7百万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数について著しい増減はありません。

(6) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売の実績について著しい変動はありません。

(7) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年11月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年1月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	21,533,891	21,533,891	名古屋証券取引所 市場第二部	単元株式数 1,000株
計	21,533,891	21,533,891	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成29年9月1日～ 平成29年11月30日	-	21,533,891	-	2,882,016	-	4,132,557

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年8月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,815,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,544,000	18,544	-
単元未満株式	普通株式 174,891	-	-
発行済株式総数	21,533,891	-	-
総株主の議決権	-	18,544	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式902株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年11月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
富士精工株式会社	豊田市吉原町 平子26番地	2,815,000	-	2,815,000	13.07
計	-	2,815,000	-	2,815,000	13.07

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の自己株式数は2,919,060株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年9月1日から平成29年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年3月1日から平成29年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,845,402	5,322,997
受取手形及び売掛金	3,672,119	3,824,547
電子記録債権	1,185,384	1,187,071
有価証券	468,987	860,805
商品及び製品	1,348,137	1,449,341
仕掛品	484,633	612,078
原材料及び貯蔵品	409,758	447,006
繰延税金資産	184,428	280,217
その他	315,614	256,101
貸倒引当金	63,238	63,615
流動資産合計	12,851,227	14,176,551
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,343,066	2,261,282
機械装置及び運搬具(純額)	3,874,632	3,790,183
土地	1,464,978	1,484,163
建設仮勘定	67,955	34,122
その他(純額)	195,899	176,442
有形固定資産合計	7,946,532	7,746,194
無形固定資産	231,863	223,461
投資その他の資産		
投資有価証券	2,121,673	2,352,810
長期貸付金	3,881	2,859
繰延税金資産	337,944	318,416
その他	158,039	187,394
貸倒引当金	31,758	31,758
投資その他の資産合計	2,589,780	2,829,722
固定資産合計	10,768,176	10,799,378
資産合計	23,619,403	24,975,930

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,200,791	1,335,737
短期借入金	479,638	482,248
1年内返済予定の長期借入金	91,605	81,686
未払法人税等	33,293	313,014
賞与引当金	131,977	306,139
災害損失引当金	2,570	-
その他	1,125,185	1,160,961
流動負債合計	3,065,061	3,679,787
固定負債		
長期借入金	229,454	235,524
繰延税金負債	13,175	42,036
退職給付に係る負債	3,516,014	3,627,248
その他	212,077	203,898
固定負債合計	3,970,720	4,108,706
負債合計	7,035,782	7,788,494
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,882,016	2,882,016
資本剰余金	4,147,458	4,144,550
利益剰余金	9,228,105	9,424,491
自己株式	715,049	805,332
株主資本合計	15,542,531	15,645,725
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	547,080	616,471
為替換算調整勘定	160,905	41,043
退職給付に係る調整累計額	1,405,016	1,235,450
その他の包括利益累計額合計	1,018,841	577,935
新株予約権	26,248	20,800
非支配株主持分	2,033,683	2,098,845
純資産合計	16,583,621	17,187,435
負債純資産合計	23,619,403	24,975,930

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
売上高	14,556,033	15,200,084
売上原価	11,612,093	11,893,405
売上総利益	2,943,939	3,306,678
販売費及び一般管理費	2,727,624	2,895,873
営業利益	216,315	410,805
営業外収益		
受取利息	22,655	27,847
受取配当金	20,888	19,150
持分法による投資利益	74,974	76,513
為替差益	-	40,964
その他	95,799	82,067
営業外収益合計	214,317	246,543
営業外費用		
支払利息	11,091	11,230
売上割引	123	276
為替差損	81,854	-
その他	5,091	5,569
営業外費用合計	98,161	17,076
経常利益	332,471	640,272
特別利益		
固定資産売却益	5,547	1,883
投資有価証券売却益	21,319	4,611
新株予約権戻入益	2,760	2,928
受取保険金	30,300	-
特別利益合計	59,927	9,423
特別損失		
固定資産除売却損	43,249	6,355
災害による損失	126,800	11,534
貸倒引当金繰入額	181	-
特別損失合計	170,231	17,890
税金等調整前四半期純利益	222,167	631,804
法人税、住民税及び事業税	192,050	346,817
法人税等調整額	307,805	78,297
法人税等合計	115,755	268,520
四半期純利益	337,922	363,284
非支配株主に帰属する四半期純利益	71,008	53,988
親会社株主に帰属する四半期純利益	266,914	309,295

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
四半期純利益	337,922	363,284
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	72,286	69,391
為替換算調整勘定	1,306,699	145,738
退職給付に係る調整額	160,708	169,535
持分法適用会社に対する持分相当額	75,257	82,730
その他の包括利益合計	1,148,962	467,396
四半期包括利益	811,039	830,680
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	565,956	750,201
非支配株主に係る四半期包括利益	245,083	80,479

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(財政状態、経営成績又はキャッシュ・フローの状況に関する事項で、企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の判断に影響を与えると認められる重要なもの)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日) を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

災害による損失

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年3月1日 至 平成28年11月30日)

平成28年4月に発生した熊本地震により被害を受けた当社の熊本工場の建屋及び機械設備に関する修繕費等を計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年11月30日)

平成28年4月に発生した熊本地震により被害を受けた当社の熊本工場の建屋及び機械設備に関する修繕費及び当社連結子会社の大連富士工具有限会社における、平成29年8月に発生した水害により被害を受けた機械設備・コンピューター機器の修繕費等を計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
減価償却費	734,865千円	768,042千円
のれんの償却額	2,940	2,058

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月26日 定時株主総会	普通株式	136,158	7	平成28年2月29日	平成28年5月27日	利益剰余金
平成28年10月13日 取締役会	普通株式	58,541	3	平成28年8月31日	平成28年11月14日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動に関する事項

株主資本の金額について、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月25日 定時株主総会	普通株式	56,755	3	平成29年2月28日	平成29年5月26日	利益剰余金
平成29年10月11日 取締役会	普通株式	56,153	3	平成29年8月31日	平成29年11月13日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動に関する事項

株主資本の金額について、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	日本	アジア	北米・中米	オセアニア	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	8,214,725	3,879,280	1,320,110	832,337	14,246,453	309,580	14,556,033	-	14,556,033
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1,531,906	640,603	1,028	-	2,173,538	13,863	2,187,401	2,187,401	-
計	9,746,631	4,519,884	1,321,138	832,337	16,419,991	323,443	16,743,435	2,187,401	14,556,033
セグメント利益又 は損失()	56,015	200,523	38,651	48,056	135,102	23,235	158,337	57,977	216,315

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、欧州の現地法人の事業活動であります。

2 セグメント利益又は損失()の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	日本	アジア	北米・中米	オセアニア	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	8,267,396	4,144,649	1,516,047	974,289	14,902,383	297,700	15,200,084	-	15,200,084
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1,484,961	565,854	2,355	-	2,053,171	13,522	2,066,693	2,066,693	-
計	9,752,358	4,710,504	1,518,402	974,289	16,955,554	311,222	17,266,777	2,066,693	15,200,084
セグメント利益又 は損失()	187,235	134,915	55,620	4,583	373,188	477	373,665	37,139	410,805

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、欧州の現地法人の事業活動であります。

2 セグメント利益又は損失()の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎ならびに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	13円72銭	16円45銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	266,914	309,295
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(千円)	266,914	309,295
普通株式の期中平均株式数(千株)	19,451	18,797
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	13円70銭	16円44銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数(千株)	32	19
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があったも のの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成29年10月11日開催の取締役会において、次のとおり当期中間配当を行うことを決議し、支払を行っております。

(イ) 配当金の総額.....56,153千円

(ロ) 1株当たりの金額.....3円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成29年11月13日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 1月12日

富士精工株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松本 千佳 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 澤田 吉孝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている富士精工株式会社の平成29年3月1日から平成30年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年9月1日から平成29年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年3月1日から平成29年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、富士精工株式会社及び連結子会社の平成29年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。